

憧れのDELICA 三田無線

UECコミュニケーションミュージアム本館(東10号館)

<https://www.museum.uec.ac.jp/>

特別企画展示のお知らせ

2026年5月~同7月 東10号館1階通路ギャラリー

2025年8月、株式会社三田無線研究所様よりご寄贈のお申し出を受け、研究所内に保管されていた多くの貴重な計測器や無線機、音響機器などをUECコミュニケーションミュージアムでお引き受けいたしました。それらは大きく分けて以下のように類別できます。

1. 創業者・茨木悟氏の蒐集によるエジソン口述筆記器、ワイヤーレコーダー、フロアタイプ高級電蓄、スピーカーなどの音響機器
2. 1945年の敗戦ころまでに製造・販売していた高級ラジオ、旧陸軍登戸研究所由来と伝わる小型箱型受信機、ドイツ帝国海軍・テレフケン製ストレート受信機や米国製受信機類
3. 自社で製造・販売していた計測器、簡易計測器および部品類、調整用の治具、計量トレーサビリティ(計測機器の確からしさを上位の基準までトレースできることを証明する仕組み)に関わる標準器、製品取扱説明書、マニュアルなど
4. 戦後に販売した各種受信機、および真空管Gm測定器や他社OEM機器など

まだ完全には整理が行き届いていませんが、ご寄贈頂いた機器類の一部を入れ替えながら順次公開してまいりました。このたび正式に5月から7月にかけて東10号館1階通路のガラスケース内に展示いたします。どうぞご覧ください。

※ガラスケース内に収めきれない一部の機器は、調整でき次第、第1、第2、第3展示室などにも展示いたします。



毎週木曜日に本企画担当の学術調査員が在籍しております。
解説をご希望の場合は事務室窓口にお問い合わせください。

開館日時: 火曜~金曜、午前10:30~12:00、午後13:00~16:00
お問合せ: info-muse-group@gl.cc.uec.ac.jp

株式会社三田無線研究所の創業者 茨木悟氏

1900年2月愛媛県生まれ、渡米しシカゴ大で研究の後、1923年帰国して「茨木悟研究所」を立ち上げる。後にクリヤホン商会名でアンプとスピーカーのセットを販売し好評を得る。1925年4月、三田無線電話研究所を設立。日本でのラジオ放送の開始を受けてラジオ受信機の開発に取り組み、スーパーヘテロダイン式受信機を開発して三田式ラヂヲと名付ける。

1937年5月、パリで開かれたExposition internationale des Arts et Techniques dans la vie moderne (現代生活における技術と芸術国際博覧会)に個人名ではなく会社名 **MITA MUSEN DENNWA KENKYUJO** (Fabrique d'Appareils de T. S. F. MITA)で参加、第4群 (Diffusion Artistique et Technique: 芸術・技術の普及)のクラス15-2に Appareil de T. S. F. avec pick-up (レコードプレーヤー付き無線機)を出品。多数の出品の中からDiplôme de Médaille d'Or (ゴールドメダル受賞証)を受けた。

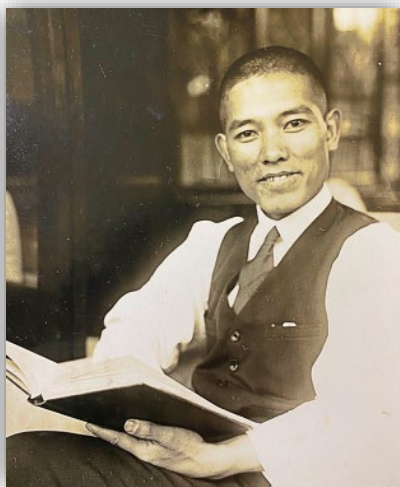
※T. S. F.は Télégraphie Sans Fil の略で無線電信を表す。ちなみに、電気通信大学の前身校である無線電信講習所のフランス語公式表記は L'école de Télégraphie Sans Fil (1932年卒業アルバムの表紙に記載)である。

1940年7月、日比谷公会堂で開催された長内端アコーディオン独奏会にて、音源部だけで48本もの真空管を使った「電気アコーディオン」を発表。戦前には珍しく、多数の音源用発振器、エンベロープジェネレータ、電圧制御増幅器を持つ本格的な電子楽器だった。

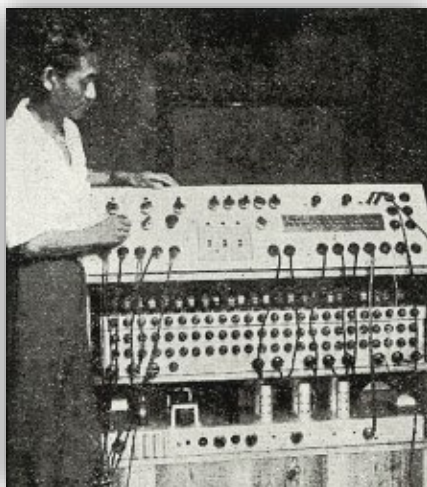
1945年以降は公官庁向けの業務用無線機や計測器の開発に加え、アマチュア無線向けの送・受信機や計測器を製造して高い評価を得る。

1994年 他界

2009年、三田無線研究所は製造販売を停止



三田無線電話研究所創業のころ
(茨木悟郎氏ご提供)



電気アコーディオンの製作時
(KORG監査役 三枝文夫氏ご提供)



晩年、1937年パリ万博金賞証書を背に
(茨木悟郎氏ご提供)